

年頭のご挨拶

学園にとって記念すべき年、 次の時代に向けて 新たな一歩を踏み出します

新

しい年がやってまいりました。今年、跡見学園は学園創立140年、大学創立50年という記念すべき年を迎えます。この節目の年、大学に新学部「観光コミュニティ学部」が誕生します。

今、大学は少子化の波を受けて、私立大学の半数近くが定員割れという、極めて厳しい環境にさらされています。こうした状況の中で跡見学園女子大学が生き残っていくためには、新しい学部を増設し、学生数を増やすことで、経営の安定を図っていく必要があると考えました。そしてそのためには、従来の学問領域にとらわれない、社会の要請に応える学部を作らなければならないという考えにいたったのです。観光コミュニティ学部設立の背景には、このような

経緯がありました。

観光コミュニティ学部は、観光立国日本の将来を担う人材を育成する「観光デザイン学科」、地域コミュニティ創成のリーダーを育てる「コミュニティデザイン学科」の2学科で構成されます。ともに、地域が主体となって新しい社会や文化を生み出すために、中心となって活躍できる女性を社会に送り出すのが目標です。

既存の文学部についても、大学創立50年を機に、改めて組織やカリキュラムを見直し、時代にふさわしい文学部に改組していく必要があると考えています。できれば、今年度中に改組のためのプロジェクトをスタートさせたいと思っています。学園にとってまた新しい一歩を踏み出したときに、改めてご報告させていただきます。

中高も

新たな方向性を示す ランドデザインを考案中

中高に関しても、厳しい教育環境の中で、学校がめざす教育や人材育成の方向性を示すランドデザインを描き、跡見としてのアイデンティティーを確立していかなければならないと考えています。跡見はかねてから全人教育・人間教育を打ち出してきましたが、それだけでは具体性に乏しいと考えました。学校としてどのような教育を行い、それがいかなる成果を生み出し、どんな人材育成につながるのかを、具体的に説得力ある形で示さなければ、保護者や教育関係者に訴えることはできません。そのためにも、中高の学校長には、過去に拘泥することなく、



跡見学園理事長
山崎 一穎

新しい跡見の姿を生み出すランドデザインを描いてほしいと要望しています。

教育を支えるハード面の整備も進行しており、観光コミュニティ学部新設と時を同じくして、学生寮「メゾン音羽」も開設します。2015年4月には改正学校教育法が施行され、学長のリーダーシップを強化し、大学の組織・運営体制を強固なものにすることが打ち出されます。高等教育はもちろん、中等教育を取り巻く環境は、今後、さらに厳しさを増していくことになるでしょう。そうした中、私も学園にとって記念すべき年を理事長として迎えられることの幸せを噛み締めるとともに、その責務を再認識し、微力ながら学園の新たな歴史を刻むべく、全力で取り組んでいく所存です。